

# 国際関係概論 20

林 光

2007年11月15日 木曜日

## 0 事務連絡

### 0.1 今後の予定

次回以降のテーマは国際関係史です。

### 0.2 レポート

- 今回返却予定
- 優秀答案作成者によるヒント
- 次回締め切りは11月29日

### 0.3 コメント

「気になるジュネーブのピックマックの値段は？」  
セットで千円くらいしました。

「仕事でしばらく来られなかった。何らかの機会に  
復習として講義してほしい。」  
きりがいいので今回やります。

「レポートの直しはどのようにすればいい？」  
何が足りないのかを自分で考え、筋の通った文章  
にしてください。もしすでに一応文章にしている不足  
部分が指摘されていたら、そこだけ付加してもOK。

「前回の授業と今回の授業の関連性をはっきりさせ  
てほしい。冒頭にて今回の授業の概要、なぜそれを学  
ぶか、前回の授業との関連性などを簡単に説明すべき。  
授業がどういう意図を持ってどういう方向にすすんで  
いるのかがわからない。あと『よくわからないけど』  
という口癖はマイナスでは？」

適切な提案をありがとう。今後は改めます。  
口癖も...気づかなかった...直します...

## 1 制度の発生1：覇権安定論

「国際経済秩序の安定には覇権国の存在が不可欠」  
例：19cの英、20cの米

「覇権国の衰退 国際経済秩序の不安定化」  
20c初の大恐慌期の混乱 = ブロック経済化  
旧覇権国の英×能力、新覇権国の米×意思

安定した国際経済秩序 = 国際公共財  
これを覇権国が一方的に負担・供給  
公共財の条件1：非競合性<sup>1</sup>  
公共財の条件2：非排除性<sup>2</sup>

## 2 制度の発生2：レジーム論

### 2.1 レジーム

レジーム：国家間で成立している原理・原則、それ  
らを規定する規則・規範の総体  
たとえ設立時には覇権国の利害を反映していても  
いったん構築されると独り歩きを始める  
= 覇権国の意図を超えた自律的な拘束力  
(覇権国すら拘束することも)

### 2.2 繰り返し囚人のディレンマ

ナッシュ均衡は(D,D)  
でもレジームは(C,C)をもたらすとされている  
ではどうやって？  
繰り返し囚人のディレンマ！  
ゲームが続く可能性 自発的協力の発生  
将来の仕返しを恐れて裏切りを控える

<sup>1</sup>人数にかかわらず全員が同時に同じ量を消費できる

<sup>2</sup>特定(費用を払わない等)の者にその財の利用・消費を禁じる  
ことが不可能

## 2.3 批判

囚人のディレンマより男女の争いの方が相応しい？  
国家は絶対利得ではなく相対利得を追求？

## 3 制度の発生 3：世界文化論

理念・規範 (cf. 国益) 国家の行動

## 4 通商レジーム

### 4.1 自由貿易

なぜ自由貿易が望ましいのか？

- ・比較優位の理論
- ・比較優位の決定要因  
地理 = 要素賦存率の違い  
歴史 = 経路依存性 戦略的貿易政策

### 4.2 保護貿易

にもかかわらずなぜ保護貿易が横行？

- ・集合行為理論
- ・階級理論
- ・その他 etc.

### 4.3 保護 自由 by 無差別 & 多角的

特定互惠主義：等価性 & 同時性  
拡散互惠主義 by MFN & 多国間

#### 4.3.1 法化

WTO から GATT へ：規律強化と規律拡大  
貿易紛争を国内司法に近い形で処理

表 1: 管理学派 vs 執行业派

学派	管理	執行
違反	× 意図的	意図的
遵守	多くで	浅いだけ
対策	アメ	ムチ

## 5 通貨レジーム

### 5.1 固定相場制と変動相場制

- ・金本位制
- ・ブレトンウッズ体制 IMF

### 5.2 トリレンマ

1. 為替相場の固定
2. 国際資本移動の自由
3. 金融政策の自律性

マンデル・フレミング (Mundel-Fleming) モデル<sup>3</sup>

#### 5.2.1 IS-LM 分析

Y: 国民所得

r: 利子率

IS 曲線  $Y = C(Y) + I(r) + G$

財市場が均衡するような Y と r の組み合わせ

C: 民間消費

I: 民間投資

G: 政府支出

LM 曲線  $M = L(Y, r)$

貨幣市場が均衡するような Y と r の組み合わせ

M: 貨幣供給

L: 貨幣需要 = 取引需要 + 資産需要

#### 5.2.2 IS-LM-BP 分析 (M-F モデル)

BP 曲線

<sup>3</sup>このモデルによれば、為替相場の安定、国際資本移動の自由、金融政策の自律性、という三つの政策課題のうち同時に達成できるのは二つまで (いわゆるトリレンマ)